

## ● ● ● はじめに ● ● ●

本書は、わかりやすい文章を書くための術を解説した本である。一読で正確に理解できる文章を書く術を伝えることが目的だ。

この文章術の適用対象は、「読者にわかって貰うための文章」すべてである。例をあげるならば、学術論文・レポート・小論文・エントリーシート・評論文・意見文・提案文・説明文・案内文・報告文などである。インターネット上での情報発信文も含めてよいであろう。このように、学術文書・ビジネス文書・個人的な情報発信の文書までを対象に含めている。

本書は、「惹き込む文章」「楽しませる文章」「魅力を訴える文章」を書くための本ではない。しかし、「読者にわかって貰うこと」が前提であるのなら、そうした文章を書く上でも役に立つ部分があると思う。たとえば、何かを売り込むことが目的の文章の場合、「わかりやすくかつ惹き込むこと」が大切である。「わかりやすく」の部分については貢献できるはずだ。

本書の特徴は、**100ページと短いながら、わかりやすい文章の書き方のすべてを解説している**ことである。その説明は、1) 文章術の前に知っておいて欲しいこと、2) 文章全体としてわかりやすくする術、3) 一つ一つの文をわかりやすくする術に及ぶ。1) では、文章を書く上での心がまえや、文章の理解とはどういうことかなどを説明している。2) では、その文書の内容をわかりやすく伝えるためには、個々の情報をいかに提示していけばよいのかを説明している。3) では、一つ一つの文の意味を、いかにして誤解なく伝えるのかを説明している。わかりやすい文章を書くためにはこれら三つを知る必要があり、そして、これらさえ身につければ十分である。それを100ページにまとめた。本書は、必要十分な文章術を、新幹線に乗っている間に理解できる本である。

説明においては、わかりにくい理由を納得してもらうことと、改

善のための実践的なコツを示すことを心がけた。この二つが、わかりやすい文章を書く実践力を身につけることに繋がるからである。実践の場では、さまざまに姿を変えた悪文に出会う。わかりにくさの理由を理解していれば、どんな悪文に出会っても、その根本原因を見抜くことができる。改善のためのコツを理解していれば、どんな悪文にも応用できる。本書の説明を読んだ上でそれなりの実地訓練をつめば、こうした実践力が必ず身につくと信じている。

私は大学人であり、理科系の研究者である。研究を進めるかたわらで私は、わかりやすい文章を書く努力を重ねてきた。この世界では、わかりやすい文章を書くことを徹底的に求められるからである。研究成果を正確に伝えるために論文を書くのだから、当然のことだ。この経験を元に、『これから論文を書く若者のために』『これからレポート・卒論を書く若者のために』『これから学会発表する若者のために』という本を書いた。幸いなことにいずれも好評を博し、定番の本として認めて頂いている。これらの本ではいずれも、わかりやすい文章を書くことを一つの課題として取り上げた。執筆のために、わかりやすい文章を書く術を自分なりに相当に研究した。本書は、これまでに私が培ったすべてをまとめた本である。わかりやすい文章を書くための術の集大成としたい。

## 謝辞

本書を書く上で、以下の方々にお世話になった。篤くお礼申し上げる。

- ◇竹中 明夫さん・石井 博さん・牧野 崇司さん・森長 真一さんには、原稿を読んでいただき、貴重なご意見を頂戴した。
- ◇「倒れた隣家の庭木」という文の問題点(第4章)は、牧野 崇司さんが指摘したものである。
- ◇本書では、東北大学の学生が書いたレポートを元にした文章例をいくつか使っている。私が担当している講義である「大学生のた

めの情報検索術」の受講生が提出したレポートだ。このレポートは、わかりやすい文章を書く術を考えるうえで大いに参考になった。

- ◇板垣 智之さん・小黒 芳生さん・松橋 彩衣子さん・黒川 佑さん・富里 祐介さん・八田 芙実香さん・星野 彰太さん・宇野 正人さん・下山 良大さん・松原 豊さん・柴田 嶺さん・阿部みどりさん・勝又 昌代さんには、本書で使った例文や書名に対する意見を頂いた。